

鶴岡市総合計画審議会 第2回企画専門委員会（会議概要）

- 日 時 平成30年4月26日(木) 午前10時から
- 会 場 鶴岡市役所 3階 委員会室
- 委員発言の概要

これからの10年で、鶴岡市のまちづくりに重視したい着眼点について

- ・鶴岡には食文化や伝統文化など既に確立されているものがあるので、それを伸ばしつつ、例えばSDGsの中の何か一つの項目に取り組むとか、働き方改革に市内すべての企業が取り組むとか、新しいことに挑戦していけたらよいのではないかと。
- ・鶴岡市全体、広域で取り組めるものを設定していければよい。
- ・自然と文化がこのまちの根幹にある価値であるとともに、この地域の精神世界も特徴的なものと感じる。出羽三山や酒井家の存在は大変魅力的であり、歴史あるものを活用することで、世界からさらに人を集めることができる。単に商業ベースではなく、世界的にも、内面的・精神的な幸福度が求められる中で、この地域が発信できる価値は大きい。
- ・一番の問題点は少子化であり、少子化を前提としてそれぞれの専門委員会が議論を進めるべきだ。
- ・鶴岡は外から色々なものを受け入れてきた歴史がある。外の人と交流して発展してきた。庄内一円を巻き込みながらやっていくことも必要であるし、慶應先端研への取組も推し進めていくべき。市外に出た子どもたちや、定年後の人たちも帰ってきて住みたくなる、高齢者も安心して暮らせるまちづくりが必要。そのためにもいろんな人との交流を受け入れていくことが重要である。
- ・循環が次の10年間のキーワードではないか。人もエネルギーも循環できることが重要。人という面では、交流人口の循環が移住定住につながるし、経済循環にもつながっていく。子育てや介護においても言える。人は社会と関わりながら循環している。
- ・子育てに関し、出産費用や、保育園、幼稚園にかかる費用負担は大きいと言われている。これらの費用軽減の方法を考える必要があるのではないかと。
- ・医療の状況を見ると、診療科目によっては医師の不足が深刻化している。人が集まってくるようなまちを目指せば、医師も集まってくる。そのためには、チャレンジできるまち、持続可能なまちということが重要なテーマになる。
- ・独自性、オリジナリティをもっとはっきりと強く出していくことが必要。
- ・人づくり、教育を重視するべき。何もないから市外に出ていくというが、いいところがたくさんあるということを子どもたちに教育していくことも必要。当事者意識や郷土愛を育てていかなければならない。
- ・鶴岡に行くと、他では受けられない教育がある、ということを出し出すことで、子育て世代が集まってくるのではないかと。サイエンスパークや山形大学農学部、鶴岡高専などの存在もある。
- ・中心市街地も様々な施策により変化はしており、住民として協力もしているが、それが問題の解決の方に向いているかどうかという思いもある。

- ・地域医療構想をどう考えているのか、10年後もまともな医療が受けられる状況なのか不安である。
- ・豊かな自然、文化をこれからも伝承していくということは、ワークショップの結果を見ても一致した意見だと感じる。発信をどうするかが課題である。
- ・人口が流出している事実を考えれば、鶴岡には不満要因が存在するという事だと思ふ。世代別にどのようなことが足りないのか洗い出す必要がある。子育て世代なら教育の魅力向上、若者世代なら物質面や就職先、中高年なら高度・先進医療の提供などが考えられる。世代別の不満要因を解消していくことが、外に出なくても鶴岡で暮らしていけるということにつながっていくのではないか。
- ・グローバル化、国際化が進む中で、鶴岡もこの10年でその方向に大きく舵を切ったといえる。食文化のユネスコ認定やサイエンスパークの存在は国際社会に位置づけられるものだ。そうした現状をどう捉えていくかも重要である。創造的、クリエイティブな社会を作っていくことが大切で、鶴岡も避けては通れないことである。
- ・少子高齢化も現実であり、高齢社会も質的に変わってくる。
- ・中心市街地の空洞化を考えると、現実的にはコンパクト化していくことが必要。クリエイティブであることを堅持しながらも、縮小を考えることも現実としては必要。

計画の策定

- ・具体的な目標を作っていくことが必要。これについてはどこにも負けない、日本、世界で一番を目指すというような目標を、各専門委員会の分野ごとに作っていてもよいのではないか。
- ・第一次総合計画の実現状況が市民にとっては見えづらい状況もあることから、第二次総合計画は進捗状況がわかりやすいような中身にしていかなければならないのではないか。何らかの数値目標を導入することや、あるいはそれを総括できるような仕組みを作るということも、企画専門委員会の提案としてあってもいいのではないか。
- ・インパクトがある標語などが必要になるのではないか。何か日本一を目指そうということは、そういった心構えを示すものも必要。
- ・目指す都市像を考えていく上で、市民がこの10年間の鶴岡のキャッチフレーズはこれだと言えるようなところまで掘り下げていくことができれば、わかりやすいし、発信もしやすくなる。遠い将来の鶴岡の方向性を考えつつ、向こう10年でどうするかを考えていかなければならない。
- ・市民がどのくらい総合計画に興味を持っているのか。前の計画の進捗度合や総括をどう見せるのかも課題である。
- ・総合計画は市民がポジティブな気持ちになれるために作るものであると思う。客観的な指標だけで社会は測ることが限界を迎えている。どれだけ市民が幸福になったかを定量的に評価するということが時代が向いてきている。指標化は難しいことだが取り組んでいかなければならない。
- ・人々が前を向くようなキーワードを作らなければならない。市民に目を向けてもらうためにも、10年以内に必ず実行するプロジェクトを各分野において立ち上げ、その達成度を検証していくのがよいのではないか。みんなが前向きに、わくわくするような風呂敷を広げていくことが今回の計画では大事なのではないか。